

ミカンキイロアザミウマに対する各種薬剤の効果

園芸試験場

1 取り上げた理由

各種園芸作物の難防除害虫であるミカンキイロアザミウマに対する各種薬剤の効果を確認し、その効果を程度別に整理したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 本種の雌成虫及び幼虫に対する各種薬剤の効果は表 - 1 のとおりである。
- 2) 薬剤によっては地域により薬剤感受性に著しく差が認められる (表 - 3)。

表 - 1 ミカンキイロアザミウマに対する各種薬剤の効果と登録状況

成分名	製品名	供試 倍率	効果の指数*		主な作目に対する剤の登録状況**								
			成虫	幼虫	きゅうり	トマト	ピーマン	なす	いちご	きく	ガーベラ	シクラメン	ばら
有機りん系													
アセフト	オルトラン水和剤	1,000	3	2									
プロチオホス	トクチオン乳剤	1,000	1~3	1									
プロフェノホス	エンセダン乳剤	1,000	2	1									
マラソン	マラソン乳剤	1,000	3	3									
DDVP	DDVP乳剤50	1,000	1	1									
EPN	EPN乳剤	1,000	3	3									
合成ピレスロイド系													
アクリナトリン	アーデント水和剤	1,000	3	2									
ネライストキシン系													
カルタップ 塩酸塩	パダンSG水溶剤	1,500	1~2	1									
チオンクラム	エビセクト水和剤	2,500	2~3	1									
クロロニコチル系													
アセタミプリド	モスピラン水溶剤	1,000	2~3	1									
微生物産生物質系													
イマメチン安息香酸塩	アフファーム乳剤	1,000	3	1									
スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	5,000	1	1									
IGR系***													
クルルフルアズロン	アタブロン乳剤	2,000	-	1									
フルフェキサズロン	カスケート乳剤	2,000	-	1									
ルフェヌロン	マッチ乳剤	3,000	-	1									
その他													
クルルフェナピル	コテツフロアブル	2,000	1~3	1									

* 効果の指数は以下のとおり。“成虫”は雌成虫を示す。

- 1 : 48時間後 (I G R 系は 7 日後) の死亡率が 90% 以上
- 2 : " " " 60% 以上 , 90% 未満
- 3 : " " " 60% 未満

** は本種に対して登録があることを、 は他の害虫に対して登録があることを示す。

*** I G R 系は生育阻害剤であるため、成虫には効果がない (効果指数の成虫欄は -) 。

3 利活用の留意点

- 1) これまでの薬剤の使用状況に応じて、薬剤感受性を低下させない薬剤の使用ローテーションに心がける。

2) 今回効果を確認した薬剤の濃度(倍率)は、作目によって異なる場合があるので、登録内容を確認のうえ使用する。

(問い合わせ先: 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 新規発生病害虫の発生生態の解明と防除法確立に関する試験
(平成10年~12年)

2) 参考データ(抜粋データ)

表 - 2 各種殺虫剤のミカンキイロアザミウマ雌成虫に対する効果(1,999年)

薬剤名	希釈 倍率	供試 虫数	48時間後		
			死亡虫数	死亡率(%)	摂食程度
DDVP乳剤 (DDVP)	1,000	30	29	96.7	0.7
トチオン乳剤 (プロチオン)	1,000	30	30	100	0.8
インダクタン乳剤 (プロフェノス)	1,000	30	18	60.0	0.8
EPN乳剤 (EPN)	1,000	30	3	10.0	2.2
アデント水和剤 (アクリナリン)	1,000	30	7	23.3	2.2
エスピラン水溶剤 (アセタミプリト)	1,000	30	18	60.0	0.5
アファム乳剤 (イマクチン安息香酸塩)	1,000	30	16	53.3	0
スピノース顆粒水和剤 (スピノサト)	5,000	30	30	100	0

摂食程度 0: 摂食なし, 1: 食害痕がわずかに認められる, 2: 食害痕が葉片の1/2未満, 3: 食害痕が葉片の1/2以上
数値は6反復の平均値であらわした。

表 - 3 各種殺虫剤のミカンキイロアザミウマ雌成虫に対する効果(採集地点別2,000年)

薬剤名	希釈 倍率	供試 虫数	採集 地点	48時間後		
				死亡虫数	死亡率(%)	摂食程度
トチオン乳剤 (プロチオン)	1,000	30	A	17	56.7	1.5
			B	24	80.0	0.3
			C	21	70.0	0.3
			D	14	46.7	1.3
バダクタンSG水溶剤 (カルタップ 塩酸塩)	1,500	30	A	26	86.7	0
			B	22	73.3	0
			C	24	80.0	0
			D	20	66.7	0
エビセクト水和剤 (チオンラム)	2,500	30	A	15	46.9	0.3
			B	19	59.4	0.2
			C	24	77.4	0.8
			D	27	87.1	0
スピノース顆粒水和剤 (スピノサト)	5,000	30	A	30	100	0
			B	28	93.3	0
			C	29	96.7	0
			D	28	93.3	0
コテツフロアブル (クロルフェニル)	2,000	30	A	6	20.0	1.8
			B	18	60.0	1.7
			C	18	60.0	1.3
			D	6	20.0	1.7

摂食程度は表 - 2 と同じ。

3) 発表論文等